笑顔いっぱい

広島中央保健生活協同組合 総合病院 福島生協病院

夏号
（第42号）
発行日／平成26年7月1日

発行・編集
福島生協病院編集委員会
広島市西区都町42番7号
TEL082-292-3171（代）

ホームページアドレス
http://www.hch.coop/fukushima/

新病院工事着工、来年9月開院予定

昨年12月より進んでおりました、新病院建設地の旧建物の解体工事が終了し、4月10日に地鎮祭が行われ、4月11日からいよいよ新病院の建設工事が始まりました。現在は、基礎工事が進んでおり、8月には鉄骨が建ち上がる予定です。

地鎮祭のあと、組合員さんや職員で着工を記念して、みんなで記念写真を撮りました。参加者には、組合員さんにその日の早朝から作っていただいた、記念の紅白のお餅が配られました。

工事中は、近隣の住民のみなさまには、ご不便、ご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

地鎮祭の様子

みんなで記念写真

現在の工事状況

完成予想図

雨にも負けず！「新病院着工祈念」けんこうまつり大成功！

新病院建設事務局　**堂垣内　美穂**

今日も緑地帯の緑を通して見上げる空は目を細めても眩しい青で、そろそろ初夏の陽光です。「けんこうまつりが、今日みたいな天気だったらよかったのに…」と、思い出すことがしばしばあります。しばしば思い出すほどに、記憶に残るけんこうまつりになりました。

当初2013年11月に予定されていたけんこうまつりは、数多のアクシデントに見舞われて一時は中止の懸念もありましたが、紆余曲折を経て2014年3月21日祝日に旧市民球場開催と決定されたのは2013年10月のことでした。日程の変更はもとより、会場となった旧市民球場の広さは想像を超えるものでした。その広さに圧倒されないまつりをと、事務局や実行委員の奮闘はこれまでにないエネルギーになりました。

けんこうまつりのテーマは「新病院着工祈念」広島中央保健生協のセンター病院である福島生協病院が、2015年9月に生まれかわることをみなさんに知っていただき、生協のけんこうづくりをアピールするおまつりです。開催が近付くと、組合員や職員は挨拶の代りに当日のお天気を話題にしていました。前日の予報では、「曇り」寒いけれど雨は降らないはずでした。ところがおまつりは、そのたった5時間に季節の全てが盛り込まれたかのような一日で、雹が降ったかと思えば青空が広がり、寒さに震えていたかと思えばポカポカ陽気。土砂降りに雨傘を広げたと思ったら、陽射しに日傘を広げるような、めまぐるしい一日でした。そんなお天気にもかかわらず、およそ7000人の来場者に会場は大変なにぎわいになりました。2か所のステージで子供たちのマリンバ演奏や神楽などたくさんのライブを堪能し、カープＯＢの野球教室では真剣に指導を受ける野球少年。健康ラリーでは、身体測定や体力測定の結果に一喜一憂したり、肺活量測定やアルコール耐性を検査するパッチテストは早々と予定の人数を終了してしまうほどの盛況ぶりでした。約70店舗の出店では、地域の野菜やフリーマーケット、賑やかな呼び込みの手作り飲食店で舌鼓を打ち…　このおまつりで福島生協病院を知っていただいた笑顔と、今も生協病院を愛してくれる懐かしい人たちにたくさん出会えました。メインゲストの二階堂和美さんは、その歌声で雨雲を吹き飛ばし、おまつりの最後の3000人の大合唱では青空が広がりました。「病院建設が、みんなで問題を解決しながらきっと成功する」ことを暗示しているようだと、みんな思ったことでした。

建設工事は、4月10日に地鎮祭を迎え着工に入りました。今年秋頃から、建物の姿が見え始めます。工事は南側の8階部分から始まり北に向かって進みます。

けんこうまつりの写真

県立湯来南高校和太鼓部のみなさん

理事長あいさつ

言語聴覚療法について

福島生協病院　リハビリテーション科
言語聴覚士　**西本　英司**

言語聴覚療法とは、言語聴覚士（ST）が行うリハビリテーションのことをいい、その内容は、大きく分けて2つの分野から成り立っています。

一つは、病気や事故などで、失語症や構音・発声障害、高次脳機能障害を起こしコミュニケーションが困難になった人に対して、意思の伝達手段を早期に確立することです。コミュニケーションが取れなくなると、自分の思いが相手に伝えられず、精神的苦痛となり、生きる意欲が低下するとともに食欲も低下することになり得ます。そこで言語聴覚士は、ジェスチャーを交えて思いを伝える練習や情景画カードを見せてその状況を答える練習などを繰り返し実施します。病気の改善を援助するなかで、技術や知識は勿論、心理的側面からの支援も重要となります。

もう一つは「食べること、飲み込むこと」の治療を専門的に行うことです。食べることは、単なる栄養補給だけでなく、生きる楽しみの一つです。脳の障害や加齢に伴う嚥下機能の低下により、口から食べることが困難になった人に対して、適切に評価・診断し、原因を見つけ出してアプローチをします。

このため、当院では、5月より嚥下造影検査（VF）を導入・開始しました。これは、近年、脳疾患やその他の疾患による嚥下障害（ムセたり、お口からの食事が取りづらいといった症状）が増加の傾向にあり、そうした症状の方々を対象に行う「飲み込み」の機能をより詳しく調べる検査です。検査はレントゲン室で行います。椅子・車椅子に座っていただき、バリウムの入ったゼリーやトロミ、液体などを実際に飲み込んでいただき、ビデオに記録します。結果をもとに、どこの部分に問題があるかを把握します。これにより、より安全な食事形態・姿勢・食事介助などのアドバイスをさせていただきます。

その他としては、小児の発達障害（自閉症や注意欠陥多動障害）や吃音、聴覚障害（補聴器・人工内耳）なども専門の分野になります。

このように、言語聴覚療法とは、コミュニケーションや食べることに関してお悩みを抱える方々の言語や摂食、聴覚に関する機能のリハビリ支援を行い、最終的に日常生活に関する内容・質の向上を図るために行われる療法です。

そのため、患者様の障害や症状よってリハビリの内容も変わってきます。言語聴覚士は本人様やご家族の意見や希望を聞きながら、患者様に最も適したリハビリを考え提供していきます。お気軽にご相談下さい。

健康ラリーのコーナー

二階堂和美さん

新任医師ごあいさつ

石原　浩人（検査科医長、一般内科、消化器内科、肝臓内科）

平成26年4月より，福島生協病院に着任いたしました石原と申します。平成4年度に広島大学を卒業し，広大病院をはじめ県内のいくつかの病院に勤務し，今回，お世話になることとなりました。今までは消化器内科，特に肝臓に特化した診断・治療を行うばかりであったため，当院で一般内科を含めた診療することになり，当初は戸惑いを覚えたものですが，2ヶ月が過ぎた今，やっと慣れてきたかな？という気がします。

昨年度までは，当院では肝炎や肝癌の専門的治療(TACE＋TAEやRFAなど)が出来なかった様ですが，私の最も得意とするこの分野の治療が可能となりました。ハード面は確かにやや旧式の感が否めませんが…患者さんのため，病院のため，全力で仕事をするハートは持っているつもりです。開業医の先生方にも，福島生協病院は肝癌の治療もきちんと出来るのだな，と思ってもらえるよう邁進いたしますので，どうぞ宜しくお見知りおき下さい。

佐伯　哲也（小児科医長）

本年4月より小児科に勤務しています。医師になって丸21年、ずっと広島でずっと小児臨床をしてきました。当院の小児医療が今まで以上に充実していくよう、あれこれ頑張っていきたいと思います。面倒なお願いをすることも多いかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

宮庄　英治（研修医）

初めまして。研修医１年目の宮庄です。

出身広島市の西区の新庄町というところです。今年、東京の帝京大学を卒業し、広島に戻ってまいりました。まだまだ未熟者で至らないところもあるかと思いますが、皆様のご期待にそえるよう精進しております。患者様方にも色々と教えていただけると幸いです。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

●基本理念●

私たちは、患者さんの立場に立った医療を実践します。

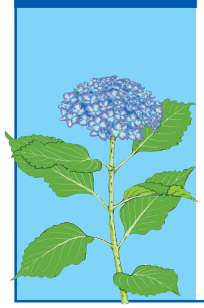
基本方針

1.インフォームド・コンセント（説明と意思決定）を重視し、信頼される医療を提供します。

2.教育・研修活動をすすめ、医療、看護、接遇の向上につとめます。

3.地域の人々とともに、医療、福祉、介護のネットワークづくりをすすめます。

編集後記



梅雨の晴れ間を期待する一方、もうすぐ梅雨も明け、真夏日と熱帯夜に寝苦しい日々をむかえることになります。猫と快適に昼寝を楽しめるのもあと少し。食欲一杯で夏を乗り切ります。

（H）

広報紙「笑顔いっぱい」は再生紙を使用しています。

Printed by PECKER PRODACTS